

# ～ ツアー登山の山岳事故防止について ～

## 旅行業者の皆様へ

ここ数年、中高年者による登山が人気となっておりますが、全国的に中高年者の山岳遭難事故が増加傾向にあります。

道内においても、過去5年間（平成16年から平成20年）で、198件、死者39人の山岳遭難事故が発生しています。

さらに、本年7月16日には、大雪山系トムラウシ山及び美瑛岳で、ツアー登山の遭難事故が発生し、9人の方が死亡（他に単独登山により1人が死亡）するという大変痛ましい事故が発生しております。

ツアー登山に際しては、次のことに留意し、事故防止を第一に心がけてください。

### ツアー登山を実施する上での留意事項

#### ○企画段階

- ・ 旅程の企画にあたっては、予備日を含めたり、行程変更の場合の代替コースをあらかじめ設定するなど、気象条件の変化に対応できるプランを作成する。
- ・ 北海道の山に対応でき、参加者の登山技術に応じた引率ができるガイドを配置する。
- ・ 必ずコース・避難小屋等の状況や気象状況を把握するため、事前に地元市町村等から情報を入手するなど、現地の調査を実施しておく。
- ・ 緊急時の避難・救助等のマニュアルを作成するなど対応策を事前に検討しておく。

#### ○募集段階

- ・ 参加者に対し、気象条件や参加者の健康・装備状態などから登山が少しでも危険な場合にはコースの変更や中止があることを強調して説明し、納得してもらう。
- ・ 登山の難易度を具体的に示し、年齢、技術に応じた参加者を募集する。なお、こうした条件に合わない方はお断りする。
- ・ 北海道の登山に対する注意事項等を事前に説明しておく。

#### ○実行段階

- ・ 入山前に必要な点検を行い、参加者に健康上の問題や装備品の不備等があった場合には理由を説明して参加をお断りする。
- ・ 安全を第一に考え、悪天候などによる中止の判断を早めに行う。
- ・ 連絡・通報のための無線機・携帯電話等の通信手段を準備しておく。
- ・ 事前に登山計画書を最寄りの警察に提出しておく。

連絡先：経済部観光局  
連携推進グループ 主査 松永  
直通：204-5304  
内線：26-569